

そらこめ通信 No.35 2013.06発行

日頃より弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。
 昨年も雪が多い年でしたが、今年は4月いっぱい低温の日が続いたため中山間地で雪解けが進まず、過去にあまり経験したことがないほど遅い春の訪れでした。ゴールデンウィークを過ぎても水田の傍らには雪が残り、田起こしを始めることが出来ず困り果てていましたが、知人からタイミングよく中古の除雪機をわけて頂く事ができ、早速圃場に投入、何とか事なきを得ました。
 今年の5月に木村社長の息子さんの拓哉君が入社しました。田起こし、代掻き共に2台のトラクターを駆使しながら順調に作業をこなし終え、5月26日春の陽気が漂う快晴の空の下で待望の田植え作業が始まりました。

田植え機を操作するのは拓哉君。初めての経験ですが機械操作の筋はなかなか良いようで、社長も手ごたえを感じているようです。この日午後から田植えを行った圃場は形状が四角ではないため、ある程度の高い操作技術とアイデアが必要らしく、社長が機械に付ききりで細かな指示を送っていました。親子の間柄ではありますが、仕事場に入れば師弟関係。教える側も、教わる側にもそれなりの覚悟と忍耐が必要のようです。現場にはいい意味で張りつめた空気が流れていましたが、他人から見ればこれほどうらやましい光景はありません。

新人が入社するのは良いものです。入社したのが後継者ならばなおさらの事。現場になんとなく活気があふれています。それは未来への「希望」がなせる業なのかも知れません。



水田の除雪(5月5日)



除雪機の出動です(5月5日)



除雪機を使って水田の除雪(5月5日)



奥の水田には多くの雪が…(5月9日)



田植え機の整備(5月9日)



田起こし(5月11日)



代掻き(5月22日)



クローラトラクターでの仕上げ作業(5月22日)



田植え作業開始(5月26日)



機械を操作するのは拓哉君



苗の補充



自らの技術を伝えるべく息子さんの操作する機械に付きながら指示を送る木村社長…見ていて心地よい空気があります



使用済みの育苗ポットの洗浄作業



育苗ハウスで軽トラに苗を積み込む山崎君…素晴らしいチームワーク



新品種「きたくりん」の圃場(5月26日)



奥にある桜の木が満開でした(5月26日)



今年休耕する圃場(5月22日撮影)

今年、北海道の補助工事が当たったため6枚の圃場を休耕します。その分収入が減るわけですが、未来への投資と割り切って喜んで受けさせて頂きました。農地を農地として維持していくことは我々農業者の義務です。それは同時に国民の食を守るという確かな意志の現れでもあります。

これからも安全で美味しいお米の生産に努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
 ブログ「生産日誌」更新中です